

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立下呂特別支援学校

学校番号

118

自己評価

学校教育目標	地域社会で主体的に生活する力を育てる ～一人一人の障がいの状況や特性に応じた教育活動を通して、 個々のもてる力（個性）を高め、生きる力を育む～
--------	---

評価する領域・分野	教育活動・学習指導
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部13名、中学部15名、小学部16名の小規模校であり、学校全体としての一体感がある。一方、各部や各学年の人間関係は少人数のため限られたものになる。 ・保護者、学校運営協議会委員を対象とした学校評価アンケートの「学校は、児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばせるような工夫をしている。」では、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて96%の状況である。また、「地域の方々や小、中、高等部間の交流活動を適切に計画し、特色ある教育内容を工夫している。」については、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて98%の状況である。 ・これまで日課や部活動の取り組み方を変更することで教職員が児童生徒に向き合い、授業研究を行う時間を確保してきた。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の学びの過程を支える支援や指導の充実 ・児童生徒が「やってみたい」と心を動かす授業が展開できるように教師一人一人の授業力の向上を図る。 ・異年齢集団や地域社会、交流籍交流、共同学習などの多様な学びの場を児童生徒に保証し、共生力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学び支援部（教師の学び）が中心となって、児童生徒の主体的な姿を引き出す教材教具に焦点をあてた研究を行う。 ・キャリア教育部、生活支援部を中心として多様な人と関わる機会をもち、伝え合う、認め合う学び（集会、行事、交流など）の設定を行う。 ・各部主事が調整役として、交流籍交流や学校間の共同学習を確実に実施する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究のテーマを「主体的に活動する力を育てる支援の在り方～支援をつなげる教材教具」とし、教材教具を物に限らず単元構成や環境設定、個別の対応を含めて対象として具体的な成果につながるような研究を進める。 ・児童生徒会活動や学校行事など小規模校の特性を生かして、様々な児童生徒が交流できるような活動を設定する。 ・対象となる交流相手校に積極的な働きかけと児童生徒の実態に合った丁寧な調整を行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員個々の授業力が向上し、授業を通して確認できたか。 ・全校集会や学校行事など、部の垣根を超えて取り組み、児童生徒のそれぞれの成長につなげることができたか。 ・交流籍交流及び共同学習を実施し、児童生徒それぞれの成長につなげることができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開を行い、お互いの授業を見合い、授業参観コメントシートを交換し合うことで授業力の向上に努めることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会が中心となって小学部から高等部まで交えた異年齢集団で運動会や学校祭などに取り組むことができた。 ・交流籍交流や学校間共同学習では、普段とは違う児童生徒の姿を見ることができ、交流の意義を再確認することができた。
評価の視点	評価
①全ての教員が授業公開を行い、同僚からのコメントを通して自分の授業を客観的に確認することができたか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
②学校の主要な行事や全校集会の機会に部間で協力し、異学年集団での交流を効果的に活用することができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③年度当初の計画に沿って、児童生徒の実態に応じた交流籍交流、共同学習ができたか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○公開授業を通して教師本来の力を発揮する場が用意され、自己研鑽に対する意識が高まった。</p> <p>○運動会や学校祭など本校独自のスタイルが確立した。</p> <p>▲部の実態により行事で取り組むねらいが異なりつつあり、一つの企画に取り組む際にはお互いの思いに齟齬がないよう十分に共通理解を図る必要がある。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上に向けて授業公開の対象を校外にも広げ、広い視野で現在の実践を見直し、授業改善を目指す。 ・運動会、学校祭、作業製品バザーの行事について今年度の評価に基づき、異年齢集団のつながりを効果的に生かせるよう部間でお互いの思いについて共通理解を図る。

学校関係者評価 （令和8年2月2日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・1年間で児童生徒が心身ともに大きく成長していることを実感した。 ・アナログ教材とデジタル教材を効果的に組み合わせた指導が行われており、大変よい。 ・少人数であるという学校の特性から、他校との交流籍交流や共同学習を積極的に進めている点は、大変よい取組である。今後もできるだけ多くの同世代の児童生徒や人々と交流できる機会を大切にしていけるとよい。